

にいがた

生涯学習ネットワーク

第3号

2016.7.31

この情報紙では、県内各地の社会教育活動を紹介していきます。

編集・発行：新潟県生涯学習協会 調査・広報委員会
*「にいがた社会教育」から数えて443号になります。

〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107号
TEL・FAX : 025-266-1120

E-mail : syaky56@feel.ocn.ne.jp HP : <http://www.niigata-lla.com/>



充実した話し合いで元気UP

～社会教育関係者元気 UP 交流集会～

6月25日(土)に新潟市アグリパークで社会教育関係者元気UP交流集会を開催しました。新潟県生涯学習協会として初めての試みにも関わらず14名の方から参加していただきました。

午前中は真柄正幸教育ファーム園長からアグリパークにおける公民館事業の可能性について話を頂き、体験畜舎の見学やトマトの収穫を行いました。

午後からの「しゃべり場」ではインタビューダイアログ方式を体験しながら、参加者と講師



陣が対等な立場で公民館についての疑問や質問を掘り下げていきました。

参加者からは「少人数だったが充実した話し合いができた」「困っていることが明らかになって整理された」「一人が講演するより皆で話し合うのが楽しい」などの感想が出されました。一方、今後の課題としては「チラシを見ても講座内容が良く分からなかった」「もっと参加者同士が交流できる時間とプログラムが必要」などの声も聞かれました。



次回は中越地区で開催！

第2回「社会教育関係者元気UP交流集会」

●日時：11月12日(土)・13日(日) ●会場：小千谷市民の家 ●参加費：未定

予定されている内容は「社会教育って何だ」「現場からの悩み」「小千谷のゴツツオでしゃべり場再開」など。詳細は決定次第HPでお知らせします。<http://niigata-lla.com/>
申込、問い合わせは新潟県生涯学習協会へ 025-266-1120

生涯学習聞き歩き

県内各地域の取り組みを紹介するこのコーナー。第1回目は前魚沼市中央公民館長の星野修美さんに社会教育への思いを語っていただきました。取材にあたっては魚沼市生涯学習課長の星野隆様からもご協力を頂きました。



平成16年に6町村が合併して誕生した魚沼市。合併当時44,000人だった人口は現在約38,000人に減少し、過疎化や少子高齢化が課題となっていることから、社会教育事業として子育て支援や高齢者の生きがいづくり、地域コミュニティとの連携や人材育成に取り組んでいます。

星野修美さん(78)は、川崎市職員として社会教育行政などに携わり、退職後は大学で教鞭を取られました。65歳のときに実家の旧堀之内町に戻られ、公民館運営審議会委員として生涯学習推進計画の策定や、合併後の公民館の在り方などについて検討。合併後は魚沼市中央公民館長を勤められました。

「合併町村は、それぞれの地域が歴史と伝統に裏打ちされた文化をはぐくんできました。その上でつながることが求められたわけです。事業としては、地域課題を踏まえた講座の実施と、魚野川に代表される恵まれた自然を生かした環境学習へのアプローチが必要ではないか。それらを、公民館が社会的課題として継続的に学び、地域に還元できないか、ということを考えたんです」と当時を振り返ります。「考えられないことでしたが『良い子は川で遊ばない』という立札が魚野川に立てられていたんですよ」と笑います。川の汚染や危険が理由とはいえ、自然環

第1回 魚沼市

公民館は
人権感覚を
磨く場

境に恵まれた地域なのに、それを生かせないもどかしさを感じたそうです。また、公民館の講座は趣味や教養の講座は活発であっても、地域活動につなげきれていらない、とも。学習成果の地域還元には、さらなる学びが必要であり、公民館はそれをサポートすることが役割であると指摘します。魚沼市には東京都から、年間1万人の小中学生が自然体験に訪れています。星野さんは「東京の子どもたちは、地域の人が気付かない地域の宝をたくさん教えてくれる。食や自然、方言に独特的の光を当てて、PRにつなげてくれる」と、様々なエピソードを紹介してくださいました。自然体験活動は人口減少が進む中で、都会との新しい接点となっているのです。

公民館の講座のあり方について「民主主義社会の定着のためには教養ある市民が育たなければなりません。一言でいうならば、人権感覚が優れている人、差別を否定する人です。人権感覚を磨くためには、マイノリティに目を向け、その側に立って考える訓練が必要です。それは学校教育だけで身につくものではなく生涯にわたって継続しなければなりません。高齢者が住みやすい社会は若者も住みやすいのです。障がい者が住みやすい街は健常者も住みやすい。在日外国人の問題は日本人の問題でもある。そういう感覚を身に着けることが教養であり、その場こそが公民館なのです」と。



麒麟山酒造



本社／新潟県新潟市豊栄町4-5-33 TEL 0254-22-2998㈹ FAX 0254-22-5175



コメリ

みえる・つながる・
つくりだす

地域活動★キラリ★

柏崎青年会議所との連携について ~ 柏崎市社会福祉協議会 ~

柏崎市社会福祉協議会が柏崎青年会議所と様々な事業で連携を図るきっかけとなったのは、柏崎市内で発生した水害や中越沖地震での復興支援活動でした。



自然災害では、広範囲で、一斉に様々な支援ニーズが発生します。

青年会議所の皆さん「若い力」と「ネットワーク」で、誰もが大変な状況の中でしたが、市内外からたくさんの仲間を集め、柏崎市社協が運営する災害ボランティアセンターでも本当に大きな力になっていただきました。

これらの自然災害は、地域社会が復旧・復興していくプロセスで、様々な機関・団体が協働することの大切さを学ぶ機会になりました。

それ以来、柏崎市社協では、職員に対し、青年会議所の公開定例会やイベントへの参加を奨励し、福祉分野以外の方々との貴重な出会いの場としたり、様々な地域課題やその解決に向けた取組み等について勉強する機会となっています。

まちづくりも地域福祉も根っこは、人と人の繋がりではないでしょうか。

「修練・奉仕・友情」を信条に、若手経済人が集う柏崎青年会議所の皆さんとさらなる連携を図り、誰もが住みよい福祉のまちづくりを進めていきたいと考えています。



思いをかたちにした「こども食堂」

~ にいがた子育ちステイション 久住由紀子さん ~

「ふじみこども食堂」は、食を通じて子どもたちを支えたいという思いから県内で初めて新潟市東区に昨年12月にオープンしました。月2回、自治会の集会場で1回100円で夕食を提供しています。活動に共感した農家からの差し入れや、調理、学習、遊びのボランティアが集まってこの活動を支えています。ボランティアは高校生や大学生が多く、毎回、楽しみにやってくる親子連れ、子ども、高齢者のみなさんと一緒に楽しい時間を作っています。



久住由紀子さんは、子育てをしながらPTA役員

や公民館活動などに関わった後、母子支援員として親の生活が子どもに連鎖することに危惧を覚えて、子どもたちに直接アプローチすることが必要だと考えました。この具体的なかたちが「こども食堂」です。食をツールとして、子どもがいろいろな人の関わりの中で多くを学び、地域で育ち、地域を愛する人になる…と持続可能な地域の居場所を目指しています。

毎回50人以上の人気が集まる“こども食堂”に刺激され、自治会が昼食付の高齢者サロンを立ち上げるなど地域への影響も広がっています。「食だけでなく生活全般を支える活動につなげていきたい」と久住さんの夢は広がります。



菊水
www.kikusui-sake.com



新潟国際情報大学
Niigata University of International and Information Studies

共立印刷株式会社

〒950-0971 新潟市中央区近江2丁目16番15号
TEL.025(285)2711(代) FAX.025(283)9386

ひと・人・ひと

新潟市秋葉区 高橋健太郎さん

新潟市を中心に商業施設で子どもと家族が楽しむイベントを企画しています。

子どもが新しい世界に触れる「きっかけ」を作りたいと考えています。



好奇心に溢れた子ども達と一緒に親子で冒險をする。そんな企画を一つでも多く実現することが私のミッションです。

イベントで司会をする高橋さん

ねつとわーく

— 日本公民館学会定例研究会 —



5月22日(日)、県内外から研究者や学生、公民館職員ら約20人が参集し、柏崎市谷根集落にある古民家で日本公民館学会定例研究会が開催されました。今回は、「地域・自治体の課題と公民館再編」をテーマにし、新潟県内の再編動向を平成合併との関連で探りました。県内からは上越・柏崎・十日町が公民館の現状や課題を、研究者からは東京や千葉の動向を報告。報告内容をふまえて、自治体の公民館の施設配置や職員配置、地域自治組織と公民館との関係、指定管理者制度の問題性などが活発に議論され、有意義な会となりました。

新潟県生涯学習協会 インフォメーション

会員
大募集!

当協会の活動は会費によって運営されています。是非会員になって会を支えてください。025-266-1120

掲示板

◆にいがた生涯学習県民フォーラム 2016

～学び楽しみ 生かす～

期日 10月28日(金)～29日(土)

会場 県立生涯学習推進センター

問い合わせ

県生涯学習推進課 025-280-5616

◆新潟県立生涯学習推進センター

問い合わせ 025-284-6110

①新潟未来創造講座 ②10月7日(金)

「コミュニティを創造するメディア活用講座」

東京大学大学院情報学環 水越 伸

②にいがた連携公開講座2016 10月28日(金)

「明るく、楽しく、あきらめない生き方」

ピアニスト辻井伸行氏の母 辻井いつ子

③コミュニティリーダー研修会 11月22日(火)

「なぜ『シブヤ大学』に若者が集まるのか」

シブヤ大学 学長 左京 泰明

④社会教育主事講習(B)

H29・1月18日(水)～2月23日(木)

◆第26回新潟県スポーツ・

レクリエーション大会 in 小千谷

期日 10月22日(土)～23日(日)

会場 小千谷市総合体育館、
小千谷市民会館等

問い合わせ

新潟県レクリエーション協会
025-287-8709

調査・広報委員長のつぶやき

先日の日報「私もひと言」欄。<お~いお茶 言ってみたいな 一度だけ>感想を寄せた人は男性が多く、「一度 言ってみたい。今日帰ったら言おう。やっぱりあしたに」「お~い なんて言ったらつるし上げられる」などの反響多数だったとか。

最近は、亭主関白などという言葉は死語に等しいと思っているのは私だけではないようだ。ご同輩のお父さん、言ってみたいのは気持ちだけにしておきましょう。家庭の平和は大事です。(田原)